

## 令和6年度 第3回 香南市産業振興計画策定委員会 【議事録】

- 日時 : 令和7年1月29日(水) 13:30 ~ 16:00
- 場所 : 香南市役所本庁舎3階 303~305 会議室
- 出席者 : ○策定委員 15名【赤池委員(委員長:オンライン参加)、別府委員(副委員長)、石丸委員、三谷委員、福井委員、岡本委員、梶原委員、森委員、明石委員、川崎委員、小笠原委員、森尾委員、松村委員、國常委員、江口委員】  
○策定委員代理 1名【白石様(JA 高知県香美地区香美営農経済センター営農指導課長)】  
○市職員 13名【濱田市長、中島課長(情報政策課)、近藤補佐、小林係長(企画財政課)、小松課長、佐田補佐、川西係長、久武係長(農林水産課)、萩野課長、府川補佐、中屋係長、藤原係長、平尾主幹(商工観光課)】  
○オブザーバー 1名【高知県地域支援企画員 山尾様】
- 欠席者 : ○策定委員 1名 (中田委員)

### ◆開催目的

令和6年度の進捗状況の報告及び第3期香南市産業振興計画(案)について、全体の説明、各分野の担当課長より報告および説明を行い、各分野別部会長をはじめ、有識者や産業関係団体の代表者と分野を超えた横断的な議論を交わす。

### ◆内 容

- ・ 令和6年12月16日から12月20日までに開催された各分野別部会の協議内容と総括及び第3期計画(案)について各担当課長より報告。
- ・ 各部会長より補足説明等
- ・ 上記のことについての意見交換
- ・ 次期計画(案)について協議、採決

### 1. 開 会

事務局挨拶

オンライン(Zoom)で赤池委員長が参加。

代理出席者1名、欠席委員1名について報告。

本日の会は過半数以上の方の出席により、成立する旨を報告。

(香南市産業振興計画策定委員会設置条例第6条)

### 2. 市長挨拶

(濱田市長)

皆さんこんにちは。貴重な時間を頂戴しこのように多くの委員の皆様にお集まりいただき感謝申し上げます。

今年度第3回目の産業振興計画ということで、今年度の振り返り、そしてまた第3期に向けた計画について、本日ご議論いただくというふうに承知をしている。

私は今週月曜日上京し、火曜日は県浜田知事と南国市長と宿毛市長、それと安田町長と、国土交通省などを回りながら、いろんな要望活動、今年度のお礼などをしていた。

それと同時に、年明けから来年度の予算であったり事業であったり、様々なことを今考えているところである。

率直に申して大変厳しい状況であり、自分だけが頭抱えているのかなどと思いながら、出張先でいろんな組長さんとお話をすると、それぞれこの規模と、喫緊度合いというのは違うが、皆さんご苦労されておるといふ話などを聞きながら、まずは物価の高騰、目の前のことであるが、それと人口減少というものが、ご承知のとおり本年度も昨年度よりさらに進んでおり、そして何よりそれぞれの自治体、香南市も含め、圧倒的に予算というものがそれぞれ井戸の底が見えてきている。

底の深さというのは自治体によって違うが、すべての自治体が底が見えておるような状態である。

その中においてこの産業振興計画というのが、これまでは私の印象としてはそれぞれの産業分野において、弱点というか、困ったことであったり、そういったことをしっかりとここでカバーして、満遍なく底上げをしていくような会であったんじゃないかと思うし、その成果というのがそれぞれの指標となり、そしてまたKPIとして出てきておるといふふうには承知している。

今後この第3期、そしてまた第4期第5期と続いていくであろう、この産業振興計画もこれからはややもすれば、これまでのように穴が空いたところを埋める作業、伸びそうなところを伸ばしていくしかできなかつたり、強みをさらに生かして行って、他とサビ分けそしてまたより強くして、守っていかなければならないような、そういったことになるのかもしれない。

そういったことを含め今後この産業振興計画というものが、第3期を迎えるにあたってこれまでよりもより重要になってくるんじゃないかと私自身は考えているし、そうならざるを得ないというふうな状況も差し迫っている。

委員の皆様には様々なお立場そしてまた専門的なご意見等をちょうだいし、よりよい香南市産業の発展、それが市民の福祉の向上に繋がるのではないかと考えているので、本日も自由闊達に様々なご意見をちょうだいし、前向きな会になることを心よりお願いを申し上げ、私からのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いする。

(事務局)

議事に入る前に本日の流れの説明

資料の確認

次第に沿って議事の説明

議事の1つ目は令和6年度の進捗状況について、各分野の担当課長より一部会3分程度でご報告及びご説明をいただく。こちらは報告事項となる。

2つ目は第3期香南市産業振興計画案について、最終案をご説明し、委員の皆様からご意見をいただく。

まず事務局より計画全体の説明をした後、農林業分野、水産業分野のご説明をいただき、部会で出た意見の共有や補足説明がある場合は、各部長よりご説明をいただく。

その後、農林水産業分野まとめて意見交換を行う。  
以後、休憩を挟みながら順番に進めていく。

### 3. 議 事 （進行：別府副委員長）

#### ① 令和6年度の進捗状況について（報告事項）

##### 【農業分野・林業分野・水産業分野】

・農林水産課 小松課長より、農業分野、林業分野、水産業分野の令和6年度10月末現在の取り組み状況について、資料1を用いて説明。

##### 【商業分野・工業分野・観光分野】

・商工観光課 萩野課長より、商業分野、工業分野、観光分野の令和6年度10月末現在の取り組み状況について、資料1を用いて説明。

（別府副委員長）

今年度の進捗について全分野の説明が終わった。説明が長くなっているが、ご意見ご質問等は議事②の説明の後にいただきたいと思う。

昨年11月に行われた第2回策定委員会では、皆様に来年度からの第3期計画に向けた考え方や方向性をお示しさせていただき、共有を図らせていただいた。

皆様からいただいたご意見等も踏まえ、昨年12月に各分野別部会が開催され、次期計画をよりよいものにしていくための議論が行われ、取り組む事業や数値目標の設定など、本日の委員会でご協議いただく最終案が提案されている。

事務局より計画の全体像について説明をお願いします。

#### ② 第3期香南市産業振興計画（案）について

##### 【全体の説明】

・事務局より、第3期香南市産業振興計画（案）について、資料2を用いて説明。

##### 【農林業分野】

・農林水産課 小松課長より、第3期からは農業分野と林業分野を一体化し、農林業分野として取り組みを進めていくこと、第3期の取り組み内容について、資料2、資料3を用いて説明。

・農業部会 石丸部会長より部会で出た意見や補足の説明。

・林業部会 三谷部会長より部会で出た意見や補足の説明。

##### 【水産業分野】

・農林水産課 小松課長より、水産業分野における第3期の取り組み内容について、資料2、資料3を用いて説明。

(別府副委員長)

それでは意見交換の方に移らせていただきたいと思います。

農林業、水産業どの分野からでもどなたからでも構わないので、本年度の進捗も含めて、ご意見、それからご質問等あればお願いしたい。

また計画の全体像についても、ご意見等があればあわせてお願いしたい。

農林業分野に関してJA白石さんご意見があれば。

(白石さん)

自分は農業部会の委員で出席させてもらっており、日頃は香美香南の農業の連絡会などで発言をさせてもらっている。石丸さんが言ったように施設園芸のハウス整備、県の園芸用ハウス整備事業や産地パワーアップ事業等でハウス整備に携わっている。

一方で水稲から各品目酪農の方へ、うちの部署が農業振興に携わっているところ。

この1年間かけて、水稲の方では市の減農薬、無農薬栽培等の特別栽培米の方もやっており、またJAとして商工観光課の方とも連携をして、今後ふるさと納税の方に着手していこうというところ。

隣の芸西村の方では、芸西村の米が足らなくなるくらいふるさと納税でコメが売れておるということで、追加してももう米がないといった状態が続いておるので、その話を先ほど石丸さんが言った芸西の方から聞き、これは着手をしていこうということで今準備を始めている。

施設園芸に関しては、燃油等の生産経費の増大等により、なかなか出口が見えない状況にはなってきているが、天候の具合等により施設園芸、果樹といった生産減、大幅な減少になり、単価高で今現在推移しているところ。

花については、コロナ以降面積が減少し、野市が主体のトルコギキョウ、夜須が主体のかすみ草は低調な販売になっている。

なかなか今年度で零細なのは酪農ということで、餌代が輸入ということもあり高騰で、やってもやっても赤字が続くといった状況になっている。昔であれば子牛1頭が30万ほどだったが、今買い手がつかないので子牛を作っても、殺処分というようなことで酪農の方が一番大変な状況になっている。そんなところが自分が把握している情勢である。

(別府副委員長)

なかなか酪農が厳しい。衝撃を受けた。

(小松課長)

酪農は確かに全国的にも数が激減している。北海道などでもすごく減ってきている。海外、インドだったか、そこからも輸入しないといけない状況になっているということを知ったこともある。香南市も3件あったが現在2件となっており、餌代がすごく高い。海外からの輸入に頼っているものもあるので餌代が非常に高く、コロナ対策で餌代の補填はしたが、今はその補填もない状況でありかなり厳しい状況が続いているというふうには聞いている。

(別府副委員長)

やはりその物価高騰というか、餌代が高くなってそれがうまく価格に転嫁できないというので厳しい状況になっている。

(福井委員)

酪農でいうと、お菓子でバターをたくさん使うがここ何年かずっとバター不足というのが言われてきて、コロナで少し消費が落ちたので今はそんなに逼迫はしていないが、いつバターが減らせられるのかと思ってビクビクしながら生産しているところ。

それと今年はお米の値段がすごく高くなりスーパーで買う米が5キロ1,800円で買っていたお米が3,000円超えないと買えないというような感じである。今まで安すぎた面もあるのかもしれないが、お米の値段どうなのか。そこは石丸さんどのような感じか。

(石丸委員)

米価については僕自身も3反で家で食べるぐらいしか作っていないが、今までが非常に消費者にとっては米が買いやすい価格ということで、農家が30キロの袋で6,000円ぐらいで取引されていたのが今年が9,000円というような価格になってきている。それでも米農家にしたら、まだ採算が合わない。1俵30キロにして1万2、3千円しないと採算ベースにのれない、また9,000円では到底採算が合わない。

ご存じのように稲刈り機のコンバインが1,000万、田植え機も5、6百万、トラクターが1,000万とかバブル期みたいに農業機械を投資しなければお米が作れない状況で、従来の6,000円はなかなか採算に合わなくて、香南市、全国も含めて遊休地、作っても赤字で結局お米を作らなくなった農家が増えてきたというふうな現状。

最終的に今年お米が若干良かった関係で作ってみようかなという農家も増えてはきているが、急に作ると言っても投資する機械代という部分があるのでなかなか厳しいとは思っている。そういった中で、消費者にとってはやはり家計に響く主食の米が高いということで非常に厳しいとは思っているが、いろんな経費を考えると高くてもおいしいお米を食べていただきたいというふうに思っている。

多分白石くん、今年も保有米がある程度ないから今年も昨年並みの価格でいくんではないかなというふうな予測を立ててますけれどもそここのところの詳しい情報を。

(白石さん)

今のところ民間在庫、政府の民間在庫が180万トンを切ってくると、米が足らなくなってくると言う目安であるが、今現在150万トンということでもう全く足りない状態になっておるそうである。

もう必然と(価格が)上がってくるのが目に見えており、自分もスーパーに行くときやはり3,300円とかいう売価になっているので、ここまで来たかということと、香南市の方は学校給食米、公社の米がカバーしているので問題ないかと思うが、隣の香美市の山田とかの学校給食米は香美市でできた米でやっているところだが、ちょっとそれが足りない状態が春から出てくる可能性があるというふうに言われているのが現状。

ただ全国的に作付けの約半分ぐらいは主食米、残りの半分は飼料用米で今東北各地の米産地の方では、その飼料用米から主食用米に切り換えていこうと、令和7年産から。高知県のこの辺の米というのは8月から刈るといのが物差しだが東北の方に行けば、9月10月になってくる。なので令和7年の9月10月ぐらいには軟調になる可能性。生産が過剰というか、多くなる可能性があるということと、例えば農業新聞を見ていくと、政府の方は備蓄米の放出なども検討というような記事も最近ぼつぼつ出ているので、どちらかと言えば軟調になる可能性が高くなってきている。

ただ一方では農業者の高齢化が全国各地とも進んできており、2030年になってくると、

かなりの面積の減少。作りたくても作れない。農業者がいなくなるということが出てくるので、逆にその先に行けば今度は食糧難になる可能性があるので、先ほど石丸さんが言っていたように、未来の自分が食べる米に投資をするために、なんとかお金を払って買ってもらえれば、農業者は糧になっていくし、生産意欲の向上に繋がっていくと思う。農協から言えることはそういったところである。

(別府副委員長)

ありがとうございます。

(江口委員)

まずちょっと基本的なところを教えてもらいたいところがある。

農業に関して言うと、新規雇用数を指標にするというお話だが、この前の会議でもあって、私はとてもいいことだと思う。県の産業振興計画でも、来年度のテーマは若者の雇用を増やすというのがニュアンスとしては入ってきており、指標の中には入っていないがそういうのがいいのかなど。逆に言うと特に若者雇用を増やすというのは全産業において大事なことなんだらうなというのを言おうかなど。県の産業振興計画を見たら農業に関して言うと出荷額や生産額を目標にしている。その分野の大きな目標として、産業振興なので、やはり生産額が上がっていく、お金を儲ける、或いは生産量を増やしていく。新規の雇用、農業を増やすというのもある。とても大事で、それを残した方がいいとは思いますが、もともとこの産業振興計画は価格、売って儲けようみたいなのがあったと思うが、最初の頃の議論には私は入っていないので今更みたいなことなのかもしれないが、生産額を入れてないのはなぜなのかなど。

なぜそう言う話になるかという、私どもの県地域アクションプランというのは、農業分野で言うとニラの生産というのがあって、我々のその指標が確か販売額だったと思う。これを見ると個別の指標で言うとニラの販売額で、資料3の4のところには、今の県のアクションプランのことが載っていて、今年度はAで目標がある程度確定しているということだが、県のアクションプランの目標も生産額になっている。農業の一番上の指標には新規就農者数だけというのがどうなのだろうと、個別の指標で見ると販売額というのも書かれてありそれでいいとするというのもある。

最初の頃の指標として雇用で行こうみたいな話は、どういういきさつがあったのかなというのが1点と、もう1点簡単に聞きたいことがある。

(小松課長)

最初にニラの販売額ということで、地域アクションプランの方に載せたのは、地産地消分の販売額ということで載せていたのではないかな。

なかなか地産地消というのはニラではできなくて、すべて地産外商で出て行っておりなかなか厳しいというようなことであつたと思う。

(江口委員)

産業振興計画自体は外に売っていかうという概念であると思う。外へ売って行って儲けましょうというような外商が最大テーマだと思う。

(小松課長)

地産外商に向けていくにも人口減少で今高齢化がどんどん進んでいる中で、生産者がいな

い。それであれば販売額は当然少なくなっていくわけですので、それに対して新規就農者を増やしていった生産基盤を固めていくというのが最初の目標値だったのではないかと思う。

(江口委員)

もう1点、これは個別の話になるが、ニラに関しては我々地域アクションプランというのがあるが、先ほどピーマンで1億円のハウス、すごい規模のものがあるというのは、県の農業は割とそういうような大規模ハウスじゃないが、そういう農業法人のようなものができて、大規模な農業というのも一つ、大きな目標という取り組みの一つにしている。さっきの話だが新規就農の中にできるだけそういう大規模のものも農業として作っていったって、来年度のテーマに雇用就農、個別の自立してやるのではなくて、雇用されて農業を始める人も増やしていきたいというのが県の目標としてあるけれども、さっきあったような大きなハウスなどで雇用就農がこの地域で生まれる案件というのがあるかどうかというのを教えていただきたい。

(小松課長)

雇用就農についても結構相談などがあり話はしているが、雇用する側にも結構負担もかかっていくことや、いろいろと事務作業もありいろんな負担がかかってくるので、そこは慎重に両方の話を聞きながら進めていっている。でも何件かはまずは自力でやるのではなく、何年か雇われてから独立自営でしていこうといった方もいるので、その方面でも市としては進めていっている。

(江口委員)

これは何かこの中のどれかにあたるといえるのはあるのか。

(別府副委員長)

新規就農者数を増やすというのがあって、その中で施策として親元就農じゃなくて、雇用就農みたいな、意図的に増やすなどそういう支援策みたいなものはあったりするのか。

(小松課長)

雇用就農を増やしていこうというこちらからの動きというものはなく、以前にもこの産業振興計画の中に載せていたが、今はこちらからどんどん雇用就農を進めていくということはないので(指標からは)のけている状態。

(別府副委員長)

どっちかという独立するとか、そういう方の支援がメインのような。

(小松課長)

そうである。独立、同じような説明は就農相談に来た時にしているが、この目標値からは独立自営というような方向で進めていくようにしている。

(福井委員)

面積を増やしていったりということですよ。農地が少なくなるんじゃなくて、新しい就農を増やして、それで耕す面積を増やしていくことを目的にしているという感じ。

水産業とかもそうだと思うがやはり若い人がその職業に就かないと、私たち魚も食べれな

くなるかもしれない。だからそこが全部どの分野も課題なのかなと思った。

(小松課長)

確におっしゃるように、どこかの法人に入って、そしたら法人がそれによって規模の拡大といったようなことも考えられるが、相談してくる方は独立自営希望の方がやはり多い。自分で農業をやってみたいからというような方が多いためにこういった目標になっているということ。

(石丸委員)

雇用就農についてはこれ非常に難しい問題、受け入れ農家の品目にもよる。ニラの場合は技能実習生、フィリピン、ベトナム、外国から入ってきて、ニラのそぐり機を入れながら結束作業まで、朝早くからニラの刈り取り、ニラの場合は露地を含めて1年間作業がある。その場合には技能実習生を3年間雇用して3年間研修をして向こうへ帰られるというふうな感じでニラの場合は継続できるが、やはり農業にとっては農繁期と農閑期があり、農閑期に実習生に何をやらすかという部分で非常に受け入れ農家も大変である。その間に何か仕事を構えないといけない。それもお金を生み出す仕事でないと、やはり給料が払えない。という部分があってやはり経営者側にもかなり負担がかかる部分があるので、受け入れ農家としては今のところニラが一番ベストかなというふうにも思っている。

経営者側によっては法人化にして1年間ずっと作業を構えていく中では、雇用についても問題ないかなというふうに思っている。今は担い手センターで3か月から1年間研修して受け入れ農家へ入るというケースもあるし、研修なしでそのまま農家で研修して、1年後に自立していくというふうな経緯もあるが、非常に難しいのはその1年間研修した後、自立できるかどうかという部分が非常に問題になってきており、今回サポートハウスで3年研修した方が1億のハウスを建てると、それは例外である。非常に成績が良くて熱心で実績が上がっているから、サポートハウスの認可がおりたと。今まであまりない。挫折して辞める方もいるし、そのまま中古のハウスを近くであたって作るという方もいるし、やはりそれぞれ研修していた人の努力の結果がいい方に出るのか悪い方に出るのかという部分もあるし、最終的に離農していく方もいる。非常に売り上げに対して経費がかかり最終的に利益がほとんどないという状況も出てきているので、傍ではいいように見えても実際はなかなか厳しい業界なので、またご理解の方よろしくお願ひしたいと思う。

(梶原委員)

部会としての意見ではなく、井上ワイナリーとしての要望というかお話になるが、私たちも市内で農業をしてブドウを栽培して製造、6次化をしている身として農業事業者としての雇用というのはすごく今悩んでいる。

契約農家さんを募りたいという気持ちもあるし、会社として雇用する、農業に従事する人が欲しいということで、募集がない状態になっている。

当然農業だけではなく、石丸部長おっしゃったように、閑散期には製造のほうに入ったりということでも年間通じて雇用ができてはいくが、全く募集がない、どこに相談をしていかわからない、市の耕作放棄地を積極的に使って、地域計画にも加えさせていただいて、いろんな活動もしていきたい中で、具体的に何か応援していただいたり支援いただいたりなんか融通いただくような機会があると、我々のような株式で農業をやっている事業者、他にもあると思うが、みかん、ニラ以外にも生姜だったりとか、というのも新しい農業者が入っ

てきて、お構いない範囲で市内で一緒に農業、事業ができていくんじゃないかなと思った。

(江口委員)

雇用就農はやはり企業さんや農業法人がやられているところで、1年通じて雇用だと働かせるようにというのがありますが、県の制御型農業みたいなものだったら1年中取るような農業やったら雇用就農でいけるというのがある。

企業型のような農業であると、私もこの前聞いたばかりであるが、県の産業振興計画の中では雇用就農を広めたいというのが来年のテーマであったりして、企業や農業法人などがやられているような、トライアル事業みたいなものをやるというのを聞いている。そういうような大きな法人がやっているものがこのエリアの中にあるのならそういうものをお勧めして、まずはその個人でやる前に農業に携わってみる、みたいな人も増やしていけるという手がないかなというのがあり、今の話なら何か使えるかどうか私も分からないが、農業振興部の方、本庁の方としては、そういうようなトライアルでも若い人をどんどん農業に関わらせていきたいというところがあって、ひとつそういう事例が域内にあるんだというのを今知りまして、アクションプランの中でもあるので、ブドウの栽培圃場を広げたいと私も思っている。

(別府副委員長)

ぜひ梶原さん、これはその取り組みをしっかりと地域本部でもサポートしてもらえたら。あと市の方も。

募集しても応募がないという、そこをどうやったら就農してもらえるのか、従業員になってももらえるのかというところを、いろいろ知恵出しして。

赤池委員長、この部分で何かご意見等ございましたら。

(赤池委員長)

1つ KPI について、新規就農者数、人を育てるということについてご意見あったかと思う。私もこの産業振興計画、香南市の産業振興計画に、6、7年ぐらい携わらせていただいて、最初に設定したときに、まずこの部会を含むこの行政としてしっかりと支援できるところを中心にやりましょうというところが1つと、農業に限らず、観光、工業、商業等につきましてもやはり、人、香南市で働きたいと思えるまちにしていくためにどうするのかということをお皆さん集まってワークショップをしながら議論したのを覚えている。

そういった経緯があって、新規就農者数ということがこれまでの変遷の中で現在数値に掲げられているということだと思う。

今後、この数値目標について部会、また皆さんにご意見いただいて、次年度以降ということにはなるが、数値目標についてはまた協議をしながら前向きに変更をしていけばいいのではないかなというふうに考えているところ。

(別府副委員長)

赤池委員長ありがとうございます。

ちょっと時間が押しており、休憩に入らせていただきたいと思う。この時計で5分休憩したいと思う。

【10分休憩】

## 【再開】

### 【商業分野】

- ・ 商工観光課 萩野課長より、商業分野における第3期の取り組み内容について、資料2、資料3を用いて説明。
- ・ 商業部会 福井部会長より部会で出た意見や補足の説明。

### 【工業分野】

- ・ 商工観光課 萩野課長より、工業分野における第3期の取り組み内容について、資料2、資料3を用いて説明。
- ・ 工業部会 岡本部会長より部会で出た意見や補足の説明。

### (別府副委員長)

商工業分野について報告があったが、意見交換に移りたいと思う。

今日リアルで参加していただいている明石委員の方から計画のこと、或いは今日も徳島の方から来ていただいているので他の地域の動きなど教えていただけたらと思う。

### (明石委員)

一昨日に徳島の神山町に視察に行っていたが、5年前、10年ぐらい前から結構リモートワークが流行り、コロナでよりまたそれが加速して一時期非常に盛んになって地域地方でというので、自治体もそれを招致して誘致する、いろんな補助金を使ってというのがあったが、もう都内のITの会社とかは、シリコンバレーの会社がリモートワークをやめて、原則全出社にしているので都内もほぼ全出社、リアル出社、リモートワークはほぼしないと。うちの会社も今週3でリモートワークしているが、週2はリアル出社で、それをちょっとやめようというので、神山町へ行ってもリモートワークをしない余波、1回ブームというものは落ち着いたのかなというのは感じた。

その代わりに「神山まるごと高専」という学校施設を作って、あるベンチャーの創業者の人が寄付を集めて、またそれが1つ起爆剤になり、教育機関、教育をちゃんと充実させようというので、今また盛り上がってるなあというのを感じている。

最近企業版ふるさと納税を活用する事例が多くなり、神山まるごと高専も企業が寄付をして、それをふるさと納税扱いにして、企業としては9割税金が利益から控除される。実質1割負担のような感じで100万、200万寄付して、実質100万負担するような、企業版のふるさと納税を活用して地域の振興、盛り上がる何かそういうものに原資を充てているというのが私の周りも大分増えてきたなというのを感じている。

私はこちらの地域に住んでいるわけではないのでわからないが、やはり人口が減っていく中で、何かしらテクノロジーというか、何かを使って盛り上げていかないと結構厳しいのかなと感じていた中で、今スタートアップベンチャー、少し話題になっているのがニューヨークで苺を作っている日本人がいて、500億円集めて、1パック1,500円で売っているが、非常に人気で、メイドインジャパンを苺工場のような、ニューヨークで大量に作ってそれを高級スーパーに売っているというので話題になっていたりで、何かしら企業誘致するの

にしても、補助金を使って人件費安いですよとかリモートワーク使えますよというのなかなか響かないのかなといったときに、やはり今いろいろお話聞いて農業とか漁業とか非常に盛んで、いろんな経験値がある中で、そういう×（かける）、地場の産業×ITとかを1つの売りにして、そういったことを応援する企業とか事業者の資金は、企業版ふるさと納税を活用するとか、そういうのも1つ面白いのかなというのは、少し空想に近いけれども、何か話聞いてて所感として思ったところ。

（別府副委員長）

その高専というのは、要は企業版ふるさと納税で運営してエンジニアというか、技術者をその地元で育てるみたいなこと。

（明石委員）

そうです。高専ですね。

高専を私立で新設して作って、国立じゃなくて、私立。それをある有名な名刺のデータベースを作っている会社が、その創業者の人がもともとは神山にリモートワーク拠点を作って、自社の社員をたまにリモートワークで行かしていたが、教育を何とかしたい、神山をもっと盛り上げたいというので高専を作って、10億円を10社から100億円集めて、それを資産運用として集めて、5%で回して、毎年5億円金利が入ってくる。それを学校の運営、学生の教育費に充てると。10億円はあげるのではなく単純に資産運用して、その利益、金利の5%で、学生を無料として学費がかからない。寮費も何もあんまりかからない。だから優秀な人が応募してくる。ただいろんな事務経費、教職員等の経費が毎年かかる。それを企業版ふるさと納税で賄っている。それは多分神山町が企業版ふるさと納税を受けて、税金9割控除という形でやっている。だから非常に面白い。

（別府副委員長）

それで地元で就職してくれたら一番いいと思う。

（明石委員）

若い人が起業するというテーマなので、地元でまさに農業林業が盛んな土地らしいので、そこで学生さんと一緒にワークショップ、フィールドワークもやっている。

（別府副委員長）

ありがとうございます。参考にしたいと思う。

森さん、いかがか。

（森委員）

前回事業承継等お話をさせていただき、引き継ぎ支援センターさんと連携してやっていくことにも取り組んでいる。

工業分野の方でこの目標値を見て、そのためにということで雇用者の方や生産性向上の支援などそういったところの繋がりというのを見させていただいたが、目標値420億というのがどれぐらいの規模になって、どれぐらいの会社があってということもあると思うが、令和5年の実績を見させていただいた時に実績値で387億という数字になってますので、これは400億を超える数値目標としては非常にいいのではないかと考えている。

それに対して当然ながら人、新しい人の雇用があって、今いる方の技術とかそういったものによって製品の予算を確保して、受注を増やして製造、出荷の量を増やしていくというようなどころになっているのではないかと考えている。

当然技術と製品の出来栄えというのは非常に大事なことだと思うので、生産能力を上げるためには当然設備も必要になってくるが、設備を入れてもやはり採算のところも気になってくるのではないかと考えているので、支援や補助金などがあればぜひ入れていただき、中小企業さんの持っている技術などをずっと引き継いでいただければ、工業分野としては生き残っているの、取り組んでいただければと考えている。

皆さんご存じのように、日銀の方が政策金利また引き上げになったということで、設備投資、製造から売上までの運転資金とかご利用を考えている会社の方には金利の負担などがこれから先増えてくるのではないかとと思うが、金融機関としてできる限り側面的なところの支援ができればと考えているのでよろしくお願ひしたい。

(別府副委員長)

ありがとうございます。

他なければ次へ進めさせていただきたい。

引き続き観光分野について萩野課長より説明をお願いします。

#### 【観光分野】

- ・商工観光課 萩野課長より、観光分野における第3期の取り組み内容について、資料2、資料3を用いて説明。
- ・観光部会 梶原部会長より部会で出た意見や補足の説明。

(別府副委員長)

観光分野はあんぱんの放送が年度末に始まるということていろいろ仕掛けていかなければということだと思いが、具体的に周遊の取り組みなどについて小笠原委員いかがか。

(小笠原委員)

周遊の計画については、いよいよ2月9日からプレイベントということで博覧会事業で実施をし、3月末にはドラマの前日、前々日にオープニングイベントを開催する。

梶原委員がおっしゃられたDMOでも把握しきれない情報も多々あり恥ずかしい限りではあるが、DMOの会員の施設の皆様を初めとしていろいろな所から情報を得ながら、しっかりと取り組んでいきたいと考えている。来年度になれば博覧会の周遊企画として、観光博覧会事業だけではなく高知県下でも今聞いているだけでも9つぐらい周遊の企画が図られており、その情報整理をしながらいかに香南市内を周遊させていけるかなというところがあるが、2月9日からは、パン・スイーツスタンプラリーといった周遊企画をまず打ち出して行く。随時皆様に知っていただきながらいろいろと仕掛けをしていきたいと思う。

(別府副委員長)

ありがとうございます。

森尾委員、こんな準備してますよというものが観光協会であれば。

(森尾委員)

観光博覧会についてはDMOさんが事務局になってくださっているので、一緒になって検討していったり進めていったりしている。

博覧会にお越しになった方にとっては、香美香南南国という市の境は関係ないと思うが、香南市はゆかりの地がない所ではあるが他の2市さんと一緒に周遊していただいて、たくさん良い所、私達が気づいていない素敵な所をぜひ味わっていただけるように、私たちもそういった情報発信ができるように改めて地域の魅力も見直していきたいと思っている。

(別府副委員長)

ありがとうございます。

川崎事務局長、商工会は何か連携してぜひお金を落としてもらえるようにできたらいいのかなと思っているが、何かあれば。

(川崎委員)

30日のオープニングイベントについては出店者の調整などで協力させていただく。後々おそらく観光客の方が増えると思うので、特に飲食とか観光業の方が新しいメニューを作りたいとか、広報したいとかいうことがあればいろんな補助金など、利用できるものがあれば利用して売り上げの向上に寄与していきたいと考えている。

少し戻るが、商工業分野の取り組みで創業者を増やしましょうというところについても大体相談には来てくれるので、創業した後も安定した利益が上げられるような支援を続けていきたいと考えているのでよろしく願います。

(別府副委員長)

萩野課長の方からあんぱんに向けて補助金など構えていると思うのでその辺の説明を。

(萩野課長)

資料2の14ページに令和7年度の目玉事業として、右上の方に物部川エリア観光博ものべすとを盛り上げますということで、「物部川エリアでの観光博覧会推進事業費補助金」をご用意させていただいている。

こちらは令和6年度の補正予算から予算化させていただいており、取り組みを進めていただいて、あんぱん関連ということで、各事業者もしくは団体の方が市内でイベントなどをさせていただく際に活用いただける補助金になっている。

拡充内容としては、ものべすとのロゴマークをつけていただく、よりPRを強化していただくことと、学生さん、今現在山田高校さんなどにも政策提言ということで、あんぱん関連の事業のご提案をいただくように準備を進めていただいており、それを実際に実現していただく際にはこちらの補助金をご利用いただくことと自己負担なしでできるというような形になっているので、ぜひご活用いただけたらと思う。

交流人口拡大の受入環境事業の補助金については、子ども連れのファミリー層、外国人居住者の方、観光客、高齢者、障害者の方が快適な環境を提供できるような形の場所にしていただくというのが目的になっており、例えばお店のファミリー層の方を受け入れる際に授乳スペースを設置したり、子ども用のイス、おもちゃなどを買っていただく際の購入費用や、外国人の受け入れとして、多言語化できるような翻訳機ソフトウェアの導入メニューなど、案内看板を多言語化していただく際の費用、高齢者、障害者などの受け入れについては、ト

イレの洋式化や手すりの設置、貸し出し車椅子の購入などといったものを想定している。

補助金としては少し金額が少なくて恐縮だが補助限度が20万、補助率は2分の1という形で制度設計をしている。

各事業者の皆様には令和7年度予算が通ってからということにはなるが、また改めて周知をさせていただくのでぜひご利用いただけたらと思う。

(別府副委員長)

ぜひあんぱんに向けて、市としてもサポートしていきたいと思っているので、ご活用いただき盛り上げていただけたらと思う。

(松村委員)

農業分野のことで言えば、1億円のハウスを建てるというすごい話があったが、私も十何年前にハウスを建てて返済も毎年大きな額を払わないといけない。その間にも台風や天災でもう少しお金を借りないかとかいうのがあるので、若い人にとっては、返済の仕方、長い目で見るとか、1人で、一代で終わるのではなくて、何年も次の世代でも使えるのならもっと長い期間で返せるようにとかそういう発想転換、あと今資材高騰とかいろいろあるが、そういうことに対しても、雇用の話も出ていたので、1企業が外国人雇うというのもやはり農家にとっては負担が大きなどころがある。うちも雇っている。花だけじゃなくて夏場はオクラを作ったりとかもしており、やはりもっと広い範囲で人材不足というなら、外に繋がってできるとか。

美容院に行っていた時に少し話を聞いて、観光で別の県であるが、川下りに行った時に、外国の人が(船乗りで)来ていて、けど向こうがメインのときは向こうに帰るという、そういうのも面白いなと思って、雇用という考えももっと広く意見を出し合って何かできればいいのではないかと思った。

(國常委員)

今回お話を聞いていて私が一番あ、いいなこれもっと進んでほしいと思ったのが、商業分野のデジタル化の補助金が出るというところ。

私も香南市に住んでいて、デジタル化というとキャッシュレスなども入ってくると思うが、そういうものに対応しているお店がもっと増えてきたら自分としてはすごくいいなというところと、やはりあんぱんが始まって、観光の方も香南市のお店に立ち寄る人が多くなると思うので、キャッシュレス決済、デジタル化が進んでいたら買い物をしやすいかなと思うので、そこがもっと進んでいくと嬉しいなと思う。

(別府副委員長)

全分野の説明、意見交換が終わったが全体を通して何かご意見があれば。

(江口委員)

前回も少し言ったが、工業分野の方に外国人労働者が入っているのでぜひ、観光分野、観光施設の入込客数について施設、事業者に聞き取りしていただいて、外国人の利用者を何とかおおよそでいいので把握しつつ、それを今後KPIに入れるようなことをやっていただけたらということと、あともう1個だけ、商業で県のアクションプランにも中心市街地活性化があり、なかなかうまく実績が出ていない。うちの職員も市街地活性化のワーキングに参加さ

せていただいてなかなかいい案が提案できていないが、少なくとも来年はあんぱんがあるので、商店街の方々が盛り上げおもてなしみたいところで一致団結できる案を私も考えたいと思うが、それは商工会、観光協会一緒に考えるべきかなど。

(福井委員)

頑張っている人もいるが、全体としては商業主が「やろうぜ!」という感じになっているかということでもなくて、今は市の職員の方にちょっと引っ張られつつやろうかみたいな感じなので。でも今度2月3日にはマルシェこうなんを高知市内の蔦屋書店でやるようなことが進んでいる。細々ではあるが続いているので頑張っていきたいと思う。

(別府副委員長)

ぜひよろしくお願ひしたい。

それでは第3期香南市産業振興計画策定にあたり、最後に赤池委員長の方から一言いただきたいと思う。

(赤池委員長)

この策定委員会に当たり各部会でしっかりとご議論いただいた内容を積み上げていただき感謝申し上げます。

それでは議事②について、最終案として委員の皆様からご承認をいただきたいと思う。

本日皆様からいただいたご意見を反映させて、第3期の香南市産業振興計画という形で取りまとめをさせていただきたいと思う。このことについては、委員長及び事務局に一任させていただくこととして、ご承認いただける委員の皆様には、お手数ですが、私の方からちょっと確認できないけれども挙手をお願いしたい。

⇒ 事務局確認 全員挙手あり(※途中退席の委員2名、代理出席者1名を除く) 承認

ありがとうございます。

策定した計画については、市のホームページで、予定であるが4月1日に掲載を考えている。

令和7年度の第1回の策定委員会にて委員の皆様には策定された計画についてお示ししたいと思う。

本日はオンラインという形で参加させていただき感謝申し上げます。

以上で私の方進行を終わらせていただき、事務局へお返すする。

(事務局)

事務局より今後のスケジュールについて説明(参考資料2)

最後に、今回を持って今年度の策定委員会は最後となり、今年度末をもって委員の皆様任期が終了となる。令和4年度から3年間にわたり多大なご協力をいただき感謝申し上げます。

今後とも引き続き香南市の産業振興にご協力いただきたいと思う。

◇閉会挨拶

(別府副市長)

長時間熱心にご議論いただき、無事第3期、次期計画の方も何とかできるような形になった。今日もいろいろ委員の皆様から担い手不足や、或いはデジタル化など様々な課題が出たが、引き続き皆さんと力を合わせて、市役所の方も知恵を絞りながら前に進めていけたらと思っている。

また来年は先ほど来出ているが、高速道路も繋がりあんぱんの放送も始まる。ぜひそういったものをしっかり香南市の活性化に結びつけていけたらと思っている。引き続きご協力をよろしく願いたい。

以上